

淡海生涯カレッジ大津校の実践

大津校実行委員会

1. 過去10年間（H18～H27）の概要とテーマの変遷について

大津校は、平成8年度に開校して今年度は20年の節目をむかえた。その間、問題発見講座（公民館での講座）、実験・実習講座（高等学校、生涯学習センターでの講座）、理論学習講座（滋賀大学での講座）という淡海生涯カレッジの特色である継続的、段階的な学習過程を大切に20年間継続してきた。しかし、本カレッジも募集定員や各講座の設定、講座内容さらには講座回数等、この10年の中で変遷している。

例えば、平日、土曜の2コース実施は平成22年度まで、それ以後は今年度までは1コースである。2コースのときは問題発見講座が2公民館、実験・実習講座は市内高等学校と大津市生涯学習センターの2会場で実施していた。そのときは、各コースの受講定員は各25名の合計50名であった。平成23年度からは1コース制となり受講定員30名、問題発見講座1公民館、実験・実習講座1高等学校となった。

講座数も20年前の開講当初から問題発見講座5講座、実験・実習講座5講座、理論学習講座10講座であったのが、平成24年の県実施要領検討会議を経て作成された実施要領に基づいて平成25年度より問題発見講座4講座、実験・実習講座4講座に変わり理論学習講座10講座となった。なお、そのことに伴い修了条件も変わった。問題発見講座、実験・実習講座がそれぞれ3講座、理論学習講座7講座が6講座の出席が修了必要条件となった。これらは、年々減少する受講応募者数の確保ならびに実施機関の負担軽減等を考慮に入れた実施体制でもあった。

*過去10年間の実施機関ならびに修了状況

年度	人数（修了者 /受講者）	修了率 %	問題発見講座 開催公民館	実験・実習講座 開催機関・高校
18	28/34	82.4	長等・膳所	瀬田工・生涯学習センター
19	30/48	62.5	滋賀・膳所	大津高・生涯学習センター
20	42/58	72.4	瀬田東・滋賀	大津高・生涯学習センター
21	42/59	71.4	青山・仰木の里	北大津高・生涯学習センター
22	28/45	62.2	青山・仰木の里	北大津高・生涯学習センター
23	24/30	80.0	青山	生涯学習センター
24	25/31	80.6	堅田	堅田高校
25	17/25	68.0	藤尾	膳所高校
26	22/30	73.3	逢坂	膳所高校
27	26/29	89.7	瀬田南	東大津高校
計	284/389	73.0		

*テーマの変遷について

平成8年度の開校以来、大津校はメインテーマを一貫して「環境人になろう」を掲げ継続してきた。環境学習と言っても幅広く身近な環境学習からより深く専門的に学習するプ

プロセスを段階的に構成していった。また、環境を幅広く捉え食育や人々の暮らし、自然環境や生活環境、文化までも学習課題としてきた。その変遷は、受講者のニーズや学習展開、講師の講座内容によるところが大きい。

＊過去10年間の大津校のテーマの変遷

年度	大津校のテーマの変遷
平成18年度	環境人になろう～びわ湖及びその集水域の環境から身近な自然・文化及び生活について考えてみませんか～
平成19年度	環境人になろう～身近な自然・文化及び生活について考えてみませんか～
平成20年度	環境人になろう～始めてみよう！身近なくらしから～
平成21年度	環境人になろう～暮らしから変える・つながる・広がる～
平成22年度	環境人になろう～自然と向き合って暮らす～
平成23年度	環境人になろう～自然の恵みを次世代へ～
平成24年度	環境人になろう～自然と文化を暮らしに生かそう～
平成25年度	環境人になろう～自然と文化、暮らしを考えよう～
平成26年度	環境人になろう～自然と共生、暮らしを考えよう～
平成27年度	環境人になろう～豊かな自然、文化、暮らしを次世代へ～

2. 実施体制や各実施機関について

(1) 実行委員会について

淡海生涯カレッジ大津校の実施にあたって全般的に企画、運営等を決定していくのは「淡海生涯カレッジ大津校実行委員会」である。実行委員会は、滋賀大学、滋賀県教育委員会生涯学習課、大津市教育委員会生涯学習課、大津市立公民館、大津市環境部環境政策課、高等学校、生涯学習センターの職員が構成し、年に5回開催してきた。平成25年度からは大津校実施要領の改訂により年に3回の開催となり、実験・実習講座は高等学校のみとなったため、大津市生涯学習センターからの実行委員はなくなった。本実行委員会では、講座内容、予算、受講者決定、修了認定、さらには開閉講式運営等全てにわたって決定している。

<淡海生涯カレッジ大津校実行委員会組織>

- ・ 実行委員長 大津市教育委員会生涯学習課長
- ・ 事務局 大津市教育委員会生涯学習課
- ・ 実行委員会構成（平成27年度体制）
 - 滋賀大学社会連携研究センター
 - 滋賀大学環境総合研究センター
 - 滋賀県教育委員会事務局生涯学習課
 - 滋賀県立東大津高等学校
 - 大津市環境部環境政策課
 - 大津市教育委員会事務局生涯学習課
 - 大津市立瀬田南公民館

(2) 開閉講式ならびに公開講座について

*開閉講式

開講式は6月上旬の土曜日に淡海生涯カレッジ学長である滋賀県教育長や大津校校長の大津市教育長ならびに実行委員会の委員が出席の下、平成24年度までは大津市生涯学習センターで平成25年度以降は大津市役所にて開催している。また、閉講式は2月中旬の土曜日に同じメンバーで同会場にて開催している。閉講式には修了証書授与等終了後、茶話会を開催し1年間を振り返り受講生同士の交流の場としている。



開講式風景



閉講式後の茶話交流会

*公開講座

大津校では開講式後すぐその場にて問題発見講座の第1講を開催している。本講座はカレッジ受講生だけでなく、公開講座として広く一般市民にも申込みをとり受講していただいている。この講座を受講した市民の方からは次年度に本カレッジを受講応募される方が毎年おられる。カレッジ大津校受講生の意欲的なスタート、さらには次年度以降の受講応募者の拡大を願って開催している。

*過去10年間の公開講座

年度	公開講座演題	講師
18	市民が担う持続可能社会 ～里山学の可能性～	丸山徳次 龍谷大学教授
19	持続可能な社会を目指して	仁連孝昭 NPO 法人エコ村ネットワーキング理事長
20	酪農から次世代へ伝える命の輪 ～自然の恵みを受けたわたし流いただきます～	池田喜久子 池田牧場取締役
21	食から考える私たちの環境	西村仁志 同志社大学大学院准教授
22	びわ湖のほとりで学び・・・そして行動へ	前川美和子 第1回カレッジ大津校修了生

23	自然の恵み 楽しみ ～消費で環境貢献～	本荘由美子 琵琶湖ホテル副支配人
24	近江の暮らしを描く ～近江の原風景～	福山聖子 画家
25	山間地農業から食文化を考える ～山菜栽培や朽木の自然を語る～	西澤恵美子 農業士
26	びわ湖の森はトチの森 ～巨木トチノキから学ぶ～	青木繁 巨木と水源の郷を守る会顧問
27	伝統を受け継ぐ檜皮葺 ～檜皮葺は究極のエコ eco～	河村直良 屋根葺師・原皮師

(3) 各実施機関の講座

①問題発見講座

問題発見講座は、受講生が興味関心を抱き、この1年間学んでいこうとする出発の講座でもある。身近な環境に関わることから、そして極めて焦点化された環境ではなく暮らしや文化、歴史をも含む広義な環境講座として提供していった。また、実際に見学し体験する講座や、その公民館の地域の自然や人的環境を活用した特色ある講座を提供していただいた。こうしたプログラム作成や講座運営には公民館スタッフの献身的で創造的な力に寄るところが大きい。少し過去の講座を紹介する。

『牟礼山の恩恵を紡いでいく技・その軌跡』

牟礼山森林クラブ

- ・子どもたちが安全に遊べる里山
- ・“携わる人たちの思い”が安全に遊べる里山
- ・地域活性化へ向けた伐採竹の有効活用

H23. 7. 8 実施 (青山公民館担当)



『里山を訪ねて』～仰木の風土と祭り～

成安造形大学附属近江学研究所 加藤賢治氏

- ・仰木の里山を訪ねる (馬蹄形の棚田見学)
- ・小椋神社で歴史を学び仰木祭の謂れを学習
- ・成安造形大学にて加藤賢治先生の講義とワークショップにて講座の集大成

H24. 7. 14 実施 (堅田公民館担当)



『夢からはじまったローザンベリー多和田』

ローザンベリー多和田社長 大澤恵理子氏

- ・コンセプト説明、ガーデン散策、収穫体験
- ・体験型観光農園でのジャガイモ収穫体験
- ・自然から学び自然の中に命がある事を体験

H25. 7. 6 実施（藤尾公民館担当）



『吾妻川の愛護活動と草木染体験』

逢坂の川を愛する会 会長 田中博氏

藤三郎紐 四代目 太田耕吉氏

- ・吾妻川の美化・愛護活動の取り組み
- ・藤三郎紐の太田耕吉氏より草木染の講義
- ・草木染の実体験

H26. 6. 28 実施（逢坂公民館担当）



②実験・実習講座

本講座は大津市内の高等学校と大津市生涯学習センター双方が担当してきたが、平成24年度以降は高等学校での実施のみとなった。高等学校での講座は主に理科の先生が中心であったが、家庭科、社会科等の教科の先生も担当していただいた。講座の教材準備や事前の準備等、かなりの時間を割いていただき苦勞していただいた。そのためか、受講生はその指導に感心し興味関心を持って意欲的に学んでおられた。実施後のアンケートでも高い評価を得た。

『自然の恵み びわ湖と共に生きる』

～漁師からみた今・むかし・そして未来～

元湖南漁業組合長 田中政之氏

- ・琵琶湖でのしじみ採り体験
- ・漁師からみた琵琶湖の変化について

H23. 7. 29 実施（生涯学習センター担当）



『理科実験実習』

滋賀県立堅田高等学校 理科教員

- ・古琵琶湖総群の堅田層の化石観察
- ・トウヨウゾウの足跡化石や火山灰層、小断層群の観察
- ・花折断層によってできた巨大断層破碎層を見学

H24. 9. 1 実施（堅田高等学校担当）



『身近な水を化学的に分析してみよう』

滋賀県立膳所高等学校 理科教員

- ・琵琶湖の水、河川の水、生活排水などを化学的な手法を使って分析

- ・モリブデン青法によるリンの検出等

H25. 8. 24 実施（膳所高等学校担当）



『ヨシノボリ類の分類と由来』

滋賀県立膳所高等学校 理科教員

- ・天神川、大戸川に生息しているヨシノボリを実体顕微鏡で観察

- ・滋賀県におけるヨシノボリの生息分布について

H26. 8. 2 実施（膳所高等学校担当）



③理論学習講座

理論学習講座は、滋賀大学が担当しており大津校と草津校の受講生が合同で受講している。本講座は、過去のカレッジ修了生が多く所属している滋賀大学環境学習支援士会の方に受付や講座の準備等お世話になっている。また、滋賀大学の先生方には講座での講師として大変お世話になっている。カレッジ受講生は大学キャンパスでの講義や一般学生との合同講義である平日正規講義（琵琶湖学特論）で学生時代に戻った気分で楽しくより深く学んでいる。



④グループ学習

滋賀大学での理論学習講座受講後の時間を利用して、テーマごとに分かれて自主的にグループ研究が実施されている。テーマは「ゴミの減量・リサイクルをどう進めるか」「身近な自然環境を守るためには」「滋賀の風土と伝統を守るためには」「食育から環境を考える」の4テーマである。メンバーの人たちは自主的に研究を進め理論学習講座の最終日に研究発表を実施している。

<過去のグループ学習の研究テーマ例・・・一部紹介>

- ・ H20 「アオコから琵琶湖の環境を学ぶ」
「秋の七草が咲く里山を子どもたちにバトンタッチー里山再生の現状と課題ー」
- ・ H21 「セタシジミから琵琶湖の環境を学ぶ」
「廃プラスチックのリサイクル化に関する分別回収手法の最適化」
- ・ H22 「食育から環境を考えるー環境調和型食物生産への志向ー」
- ・ H23 「滋賀の風土と伝統を守るためにはー伝統行事「オコナイ」から学ぶー」
- ・ H24 「身近な自然を守ろうー滋賀の野山の荒廃ー」
「滋賀県の伝統と風土を守るためにはー雑煮を食す文化を調べてー」
- ・ H25 「食育から環境を考えるー自らの健康を維持する食事を考えるー」
- ・ H26 「滋賀の風土と伝統を守るためには」
ー草津追分野神社祭禮と木地師の里東近江市君ヶ畑・蛭谷の現状からー

(4) 選択講座

カレッジ本講座以外に大津校では選択講座として受講生に受講案内をしている。選択講座を受講すればカレッジの講座としてカウントしている。選択講座は、さらに幅広く環境について学んでいただく機会として提供している。

*平成26年度選択講座

- ・ 大津市環境政策課主催事業：自然家族事業「びわ湖の日」「びわ湖漁の日」「山の日」
- ・ 琵琶湖博物館主催事業：「指導者向け博物館活用講座」
- ・ おおつ環境フォーラム主管事業：「おおつ市民環境塾2014」⇒10講座
- ・ 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター主催事業：「びわ湖セミナー」
- ・ 滋賀大学環境学習支援士会・滋賀大学共催：「滋賀大学環境シンポジウム」

3. 受講者について

大津校は淡海生涯カレッジ開設時、平成8年度に開校している。今年度で20年間という歴史が刻まれている。受講生は延べ総数で920名（H27年度含）、その内修了者数は628名（H26年度まで）、修了率は70.5%である。平成18年度～平成27年度の10年間では、受講生総数389名（H27年度含）、修了者総数258名（H26年度まで）、修了率は71.7%である。このように20年間続いている事業である淡海生涯カレッジ。そして、7か月間という比較的長い期間を学び続ける受講生のみなさん……。その続く秘訣は一体何か？ それは受講生からの感想からも伺える。公民館から高等学校、大学という学習システムの変化、そしてそれぞれの実施機関の講座内容の創意工夫である。また、学ぶ人たちと講師の方の意欲や熱意を強く感じ、そのことも大きな要因である。学びのテーマ「環境」の持つ魅力、琵琶湖のある大津、滋賀の自然と人々との営みが学ぶ人を引き込むのであろう。また、学ぶ人同士の出会いと学びあうことにより人との関わりや繋がりができることも大きな魅力である。こんな魅力がいっぱいだからこそ淡海生涯カレッジ大津校が20年間も続いたのだと思われる。

*過去10年間の受講者数および修了者数等の表

淡海生涯カレッジ大津校の過去10年の申込み状況

	定員	申込者数	受講者数	修了者数
平成18年度	平日 25	24	24	21
	土曜 25	10	10	7
平成19年度	平日 25	22	22	14
	土曜 25	27	26	16
平成20年度	平日 25	33	33	26
	土曜 25	27	25	16
平成21年度	平日 25	34	32	21
	土曜 25	29	27	21
平成22年度	平日 25	25	23	17
	土曜 25	22	22	11
平成23年度	平日 30	39	30	24
平成24年度	土曜 30	36	31	25
平成25年度	土曜 30	25	25	17
平成26年度	土曜 30	32	30	22
平成27年度	土曜 30	38	29	—

淡海生涯カレッジ大津校 受講生年代一覧

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
20代	1	3	1	0	1	0	0	0	0	0
30代	3	2	2	0	1	2	0	0	0	0
40代	3	9	8	3	7	0	3	2	3	1
50代	8	12	9	11	7	4	3	1	1	3
60代	15	19	30	34	21	21	14	14	13	15
70代以上	4	3	8	11	8	3	11	8	13	10
合計	34	48	58	59	45	30	31	25	30	29

*受講者の感想（各年度発行の記録誌より1部抜粋）

○問題発見講座及び実験実習講座では、初対面の方々と仲良く取り組みができて毎回参加するのが楽しみでした。また、目からウロコの事柄も多々あり、今後の生活に役立てたいと思います。理論学習講座は、憧れのひな壇に座って講義を受けましたが、私には難しい事もあり、居眠りをしたこともありました。地球規模の環境問題に少しばかり足を踏み入れられた気がします。

○青山公民館の講座では、地域に根ざした方々の活動について学びましたが、中でも地元青山の牟礼山に対する思いを着々と実に結ばせている方々の活動に感銘を受けました。

生涯学習センターでのびわ湖の船上体験、西の湖のヨシ原、環境科学館のプランクトン観察等、いつも見ているだけでのびわ湖を肌で感じる貴重な機会でした。また、年代を越えた仲間ができたことも大きな収穫で、受講して本当に良かったと思っています。

○大阪から大津に引っ越して4年目。滋賀県は自然に恵まれ、歴史的にとても古く、知れば知るほど、興味深く、素敵な楽しいところだと日々実感しています。今回カレッジに参加し、ブルーベリー、しじみ、ヨシ、里山さらに盛り沢山の環境問題を学びました。これから学んだことをどのように生かしていくのか、また目の前の美しい琵琶湖をいかに守っていくのが私の課題です。まず、身近なことから実行し、またもっと滋賀を知りたいと、今思っています。

○何年前「豊かな海つくり滋賀大会」があり、地域の公園を流れている川の水質検査を仲間調べ参加したことがある。環境問題とは、びわ湖、ゴミ、水、空気、土壌と思いつく。それらについて、幅広く深くデータ等に基づいて現状をいろいろ教わり、今では、地域・国・世界に、さらに地球規模でより良い環境に、取り組んでいることに対し大いに感動した。最年長で図らずも華の女子大生になり得たこの企画にめぐり会えたことは、有り難く又知らないことの多さに驚いています。

○これまで団塊の世代・企業戦士の一人として生きることで精一杯でした。ところが、大津校での体験や学びから新しい価値観が生まれ始めようとしています。「琵琶湖を中心とする環境保全にどのようにかかわっていけばよいか」あまりにも壮大なテーマゆえ、答えを求めようとは思いませんが、「少年時代の故郷の原風景」の一部でも取り戻すために何ができるのかと考え始めました。新しい世界を教えていただきました関係の皆様へ感謝申し上げます。

○どうしようか迷ったあげく、締切日での受講申込みでした。当初は妻も一緒のつもりでしたが、言い出した自分の方が抽選で外れたら、との思いから私だけにしました。カレッジでは、多くの方にお出会えました。綿向山の山歩き、瀬田川でのしじみ採り等は初めての体験でした。昔を思い出す講義や実習、全てが新鮮で楽しい日々でした。最初は迷いましたが、受講してよかったと確信しております。ありがとうございました。

○3講座の中で、滋賀大学での理論学習講座が最もおもしろかった。大学ではこのような楽しい、興味深い講義が行われているのかと学生を羨ましく思ったくらいである。深く研究されている専門分野の講義だけに1つ質問すると10ほど答えが返ってくるという何とも楽しい講義が多かった。問題発見、実験・実習講座はその道を究めた先生方の話を聞いたが、皆熱心すぎて、予定時間を守れないケースが多々あったのは残念である。

○平成8年度に開校されたという歴史あるカレッジに学ぶ機会をいただき、無事に終了の運びまでがんばることができました。関係者各位の皆様にお世話いただいたことに厚く感謝申し上げます。限られた狭い地域であっても、公民館の核として、小中高校をも巻き込んでの世代を越えた「環境・まちづくりの学習」の体系・継続性のあるシステムが構築されて、地元でもたくさんの方が気軽に学習できることを提案したいものです。

○大津校の前期2講座は、当初予想していたものより遥かに充実していた。堅田近辺に住んでいてもあまり目に触れないもの、場所が講義対象となっており新たな知識を得ることができた。更に、久しぶりに絵筆、郷土料理は非常に楽しいものであった。後半の草津校との合同講座は大学での講義もさることながら何と言ってもグループ学習が素晴らしかつ

た。前期の問題発見講座と学習が結びつき、単に座学を受けた以上のものを得られた。

○自然と文化、暮らしを考える機会となった淡海生涯カレッジを受講できたことに感謝しています。藤尾公民館での問題発見講座、膳所高校での体験的学習、滋賀大学での専門的学習へと、継続的・段階的に学習でき、更に多くの選択講座を受講できるシステムは、本当に素晴らしいものでした。環境学習船で水環境を学習する選択講座を受講しましたが、機会があれば今回受講できなかった他の選択講座にも参加してみたいと思います。

○「とても楽しかった。」の一言です。琵琶湖をとりまく問題が、森や川とつながっていることから、視点の異なる専門の先生から受ける授業はいつも解り易いお話と趣向を凝らした楽しいものでした。環境をこんな方面からも改善できるのかと思った「環境の経済的価値とその評価」の講義は、成程と思いました。カレッジのどの講座も素晴らしく、紹介いただいた選択講座も参加させていただき、充実した1年を過ごすことができました。また、参加したいと思います。

○受講で強く印象に残っているのは琵琶湖のプランクトン『ビワクンショウモ』です。採取した水を私のスポイトが吸い上げた一滴が顕微鏡の中で姿を現した時、その美しさに叫びそうになりました。勲章というよりレースのモチーフのような繊細な緑色の形はテキストの写真より美しく一瞬に魅了されました。先生も大興奮で写真を写す人もいました。あの優美な姿とあの時の高揚感は思い出すたびに蘇ってきます。

4. 淡海生涯カレッジ大津校の成果と今後について

淡海生涯カレッジの事業が、とりわけ大津校が開設から20年間も続くというのはすごいことで、そのことが大きな成果と言える。過去の修了生には、その後滋賀大学環境支援士会へ入会し多くの方が活躍されている。また、環境フォーラムやびわ湖フローティングスクール「湖の子サポーター会」へも登録されている。さらには、第1期生で結成された『ぼてじゃこトラスト』や、『菜の花プロジェクト』でも活躍されている。このように、カレッジで学んだことを契機に学んだ成果を地域や環境への市民の活動の場を通して行動を起こしている。

カレッジは概ね7ヶ月という長い期間の学びである。その中で学ぶ仲間の結びつきが生まれる。年齢や職業も違う人たちが学びあう中で交流が生まれ新しい出会いがある。また、退職し勤めを終えた人たちの再学習の場でもあり、まさにカレッジは生涯学習の場を提供してきたと思う。カレッジを修了したほとんどの人は、その意義と価値を大いに評価されている。ただ、若い人たちの参加が少なく、幅広く本カレッジの存在が知られていないようである。広くアピールする方法や努力が足りなかったのかもしれない。今後の課題と思われる。

また、毎年を受講後のアンケートを見ると、テーマを環境・自然に限定せず歴史や人物、暮らしや文化・伝統、観光等、学びのテーマを広げて欲しいとの要望も多くある。こうした意味に於いて、今後、大津校として大津の自然や環境を大事にしながらも、大津そのものを多方面から学ぶ場を提供することが重要だと思われる。これからの講座が、大津を再発見する場となり、そして学んだ人たちが1つの力となり大津のまちに広がり、主体的にまちづくりに貢献していくことを願うものである。